

令和6年度 渋川小学校 学校だより

令和7年3月3日



かしの木 第18号



6年生への感謝の気持ちを込めて

2月25日（火）に「6年生を送る会」がありました。

今回の企画・運営を行ったのは5年生。

全校生がそれぞれ役割をもち、6年生への感謝の気持ちを伝えられるように、事前の準備から一生懸命に頑張る姿が見られました。

入場の担当は1年生です。6年生と一緒に手をつないで入場します。4月の「1年生を迎える会」では、6年生に手を引かれて入場していた1年生が、6年生を会場（体育館）まで案内するのですから、大きな大きな成長を感じます。

その入場（退場）場面では、4年生が「花のアーチ」を持って登場しました。

綺麗なアーチを、少し照れくさそうにしながらも、にこやかに、そして誇らしげにくぐり抜けていく6年生の表情がとても柔らかく感じられました。

「送る会」の幕開けは2年生代表の開会の言葉です。緊張した表情は感じられたものの、立派な態度で堂々としたあいさつに、会がピッと引き締まった感じがしました。2年生全員が代表と同じ気持ちで応援している様子を感じられました。

全校合唱は圧巻！

子ども達の歌声はいつ聴いても、胸がぎゅっと熱くなります。

（ご存じの通り、涙腺が弱いので、この序盤ですでに涙がこぼれそうになりました）

6年生へのプレゼントは3年生が担当です。清掃班ごとに心を込めて作った色紙を大事そうに持ち、感謝の一言を伝えながら6年生に手渡す姿が素敵でした。

6年生からのプレゼントもありました。

縄跳び、長縄、跳び箱…。

カッコいい6年生の姿。憧れの6年生の姿に、大きな拍手がわきました。



手作りのあったかい渋川小ならではの「送る会」。
6年生の存在の大きさを改めて今感じています。
卒業までいよいよあと1ヶ月。残り14日。

〈渋川コミュニティ・スクール〉 -「詩吟教室」-

先日2月28日に5年生が「詩吟」に挑戦しました。

講師を引き受けて下さったのは、歴代のPTA会長でもある渡辺勇治さんと上田美次さん、そして、渋川詩吟会の会長である佐藤正さんの3名です。

独特の抑揚や音の伸ばしが特徴の「詩吟」。

今回、教えていただくまで、少し緊張した面持ちが見られた子ども達ですが、先生方が優しく楽しく進めて下さったので、安心して学習に臨めたようです。



- わかりやすく教えていただきありがとうございました。音楽の授業みたいで、楽しく学ぶことができたので嬉しかったです。次の機会もよろしくお願いします。今日はありがとうございました。(中村莉愛さん)
- 今回、詩吟を教えて下さり、ありがとうございました。普通に読むのではなく、高音、中音、下音で読んだことが楽しかったです。本当にありがとうございました。(渡邊春人さん)

なお、来週ももう1時間、ご指導いただけることになっています。

「ようこそ先輩」。

地域には、素晴らしい先生方がたくさんいます。

校長の独り言



1年生の図工。子ども達が真剣な表情で作品を作っている。様々な箱を組み合わせながら想像豊に作品を作っている。色や形の組み合わせを考えながら、作ってはやり直し、また作っては、やり直し。試行錯誤を繰り返し、自分のイメージに近づけようと一生懸命に作る姿はまさに職人のようだ。大きな箱を組み合わせるとロボットを作る子。筒を使って剣を作っていく子。車があったり、家があったり…。夢中になって作品づくりを進める姿は見ていてとても嬉しくなる。箱の組み合わせも、ガムテープやセロハンテープなどでベタベタと接着されているのではなく、実にスツキリと上手に貼り合わせていて高度な技術も感じ取れる。なかなかやるではないか…。

先日、でき上がった作品を図工室から教室に移動させる1年生に廊下で遭遇した。落とさないよう慎重に自分の作品を持って移動している。ほとんどの子が両手で1つの作品を抱えて行く中、ある子が2つの作品を片手に1つずつ持っていた。「おっすごい！2つも作ったんだね」と大げさに褒めながら声をかけると、すかさず「3つです！」と返ってきた。(何！まさかの分離！)その後、すぐに別の子が四角い箱を組み合わせたロボットのような作品を持ってやって来た。先程の名誉挽回のチャンス！「おっ、ロボット、かっこいいね！」と言おうとしたら、隣にいた子が「自動販売機、上手にできて良かったね」。(えっ！うそでしょ！危ない、危ない…。言わなくて良かった)

ああ、私は純粋な心を失ってしまったのだろうか。「自動販売機」。なんとも芸術の道は厳しい。校長室で同じように箱を組み合わせしてみた。自動販売機にはまだ見えない…。修行が足りない。